



Red Hat Insights 2022

Advisor と Ansible Playbook を使用した設定問題の修復

アドバイザーサービスで Playbook を作成して、Ansible ワークフローで実行します。

Red Hat Insights 2022 Advisor と Ansible Playbook を使用した設定問題の修復

アドバイザーサービスで Playbook を作成して、Ansible ワークフローで実行します。

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Remediating_Configuration_Issues_Using_Advisor_and_Ansible_Playbooks.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Ansible Playbook を作成して、アドバイザーサービスで特定される問題の修復を自動化します。

目次

多様性を受け入れるオープンソースの強化	3
RED HAT ドキュメントへのフィードバック	4
第1章 INSIGHTS FOR RHEL アドバイザサービス修復の概要	5
第2章 ADVISOR による推奨事項をもとにした手動の修復	6
第3章 修復を自動化する ANSIBLE PLAYBOOK の作成	7
3.1. 個々のシステムで複数の推奨事項を修復するための ANSIBLE PLAYBOOK の作成	7
第4章 参考資料	9

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#)をご覧ください。

RED HAT ドキュメントへのフィードバック

弊社のドキュメントに関するご意見やご感想をお寄せください。フィードバックを提供するには、ドキュメントのテキストを強調表示し、コメントを追加します。

前提条件

- Red Hat カスタマーポータルにログインしている。
- Red Hat カスタマーポータルでは、このドキュメントは **Multi-page HTML** 表示形式です。

手順

フィードバックを提供するには、以下の手順を実施します。

1. ドキュメントの右上隅にある **フィードバック** ボタンをクリックして、既存のフィードバックを確認します。



注記

フィードバック機能は、**マルチページ HTML** 形式でのみ有効です。

2. フィードバックを提供するドキュメントのセクションを強調表示します。
3. ハイライトされたテキスト近くに表示される **Add Feedback** ポップアップをクリックします。ページの右側のフィードバックセクションにテキストボックスが表示されます。
4. テキストボックスにフィードバックを入力し、**Submit** をクリックします。ドキュメントに関する問題が作成されます。
5. 問題を表示するには、フィードバックビューで問題リンクをクリックします。

第1章 INSIGHTS FOR RHEL アドバイザサービス修復の概要

Advisor サービスは、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) システムで、各システムに適した各推奨事項についての解決手順を提供して問題の解決をサポートします。その後、問題を手動で修正するか、または Ansible Playbook を作成して解決手順を自動化できます。

第2章 ADVISOR による推奨事項をもとにした手動の修復

advisor サービスでは、各ルール/システムペアで問題を手作業で解決する手順が提供されます。

手順

1. 必要に応じて [Red Hat Enterprise Linux > Advisor > Systems](#) ページに移動し、ログインします。
2. 推奨事項をもとに解決するシステムを見つけて選択します。
3. 解決に使用する推奨事項を見つけ、選択します。
4. 説明を展開し、**Detected issues** をスクロールして、特定の **Steps to resolve** を表示して、そのシステムの推奨事項を解決します。
5. **Steps to resolve** に従って、システムの問題を修正します。

第3章 修復を自動化する ANSIBLE PLAYBOOK の作成

Advisor サービスを使用する場合には、Ansible Playbook を作成して、推奨事項をもとにした修復を自動化できます。



注記

Ansible アイコンを探します。これは、特定のルール + システムペアに利用可能な Playbook があるかどうかを示します。playbook を利用できることを意味する青い Ansible アイコンその行のグレイのアイコンは、Playbook が利用できないことを意味します。

以下の手順では、playbook を作成して、影響をうけるシステム上の個別の推奨事項を修正します。

手順

1. 必要に応じて [Red Hat Enterprise Linux > Advisor > Recommendations](#) に移動し、ログインします。
2. 解決に使用する推奨事項を見つけ、クリックします。
3. **Affected systems** の一覧で、Playbook に追加する各システムの横にあるチェックボックスを選択します。
4. **Remediate** をクリックします。
5. 修復を既存または新規の Playbook に追加するかどうかを選択し、以下のアクションを実行します。
 - a. **Existing Playbook** をクリックし、ドロップダウンリストから必要な Playbook を選択します。あるいは
 - b. **Create new Playbook** をクリックし、Playbook 名を追加します。
 - c. **Next** をクリックします。
6. 概要の情報を確認します。
 - a. 要約の下部までスクロールし、利用可能な場合は **Auto Reboot** を切り替えます。
 - b. **Create** をクリックします。

検証手順

1. Insights for Red Hat Enterprise Linux services メニューで **Remediations** を選択します。
2. 作成した Playbook を見つけ、その横にあるチェックボックスにチェックを付けます。
3. **Download playbook** ダウンロードリンクを使用して playbook をダウンロードします。

3.1. 個々のシステムで複数の推奨事項を修復するための ANSIBLE PLAYBOOK の作成

Advisor サービスを使用する場合には、Ansible Playbook を作成して、推奨事項をもとにした修復を自動化できます。



注記

Ansible アイコンを探します。これは、特定のルール + システムペアに利用可能な Playbook があるかどうかを示します。playbook を利用できることを意味する青い Ansible アイコン。その行のグレイのアイコンは、Playbook が利用できないことを意味します。

手順

1. 必要に応じて [Red Hat Enterprise Linux > Advisor > Systems](#) に移動し、ログインします。
2. Playbook を作成するシステムを見つけて選択します。
3. 解決に使用する各推奨事項の横にあるチェックボックスをクリックします。
4. **Remediate** をクリックします。
5. 修復を既存または新規の Playbook に追加するかどうかを選択し、以下のアクションを実行します。
 - a. **Existing Playbook** をクリックし、ドロップダウンリストから必要な Playbook を選択します。あるいは
 - b. **Create new Playbook** をクリックし、Playbook 名を追加します。
 - c. **Next** をクリックします。
6. 概要の情報を確認します。
 - a. 要約の下部までスクロールし、利用可能な場合は **Auto Reboot** を切り替えます。
 - b. **Create** をクリックします。

第4章 参考資料

このサービスの詳細は、以下のリソースを参照してください。

- [Assessing Red Hat Enterprise Linux \(RHEL\) Configuration Issues Using Red Hat Insights](#)
- [Advisor サービスレポートの生成](#)
- [Insights for Red Hat Enterprise Linux ドキュメント](#)
- [Insights for Red Hat Enterprise Linux 製品サポートページ](#)